

## 資金協力事業/開発課題別の指標例について（ガイドライン）

### I. 「開発課題別の指標例」とは

JICAが開発途上国で実施する資金協力事業に関し、協力の効果を「客観的」かつ「定量的」に分かりやすく示すために、解決すべき開発課題に応じた運用・効果指標の参考例を整理したものの。

#### II. 本指標例の位置づけ

今般作成した指標例は、開発課題体系図（※途上国における開発課題の構成を横断的に俯瞰して全体像を把握するために、各開発課題を「開発戦略目標」>「中間目標」>「中間サブ目標」にブレークダウンし「目的—手段」の関係をツリー形式で整理したもの）に基づいて指標の分類整理を行ったものであり、開発課題に紐づかせる方法で指標を整理した。これにより、個別案件がどの開発課題に対応するものなのかを案件計画時に意識できるようにした。本指標例は特に、案件形成、事前評価段階における定量的効果にかかる指標の設定時にレファレンスとして活用されることが期待される。

#### III. 留意事項

今般作成した指標例は、資金協力事業の指標検討の一助とすべく整理と例示のみを行なったものであり、効果の実現に至るための分析枠組みや手法を示したものではありません。案件の検討にあたっては、本指標例に記載された指標を機械的に使用するのではなく、個々の対象国の現状や開発課題に関する分析を踏まえた事業目標の設定を前提とし、そのうえで、目標に合致した適切な指標を、個別具体的な状況に応じて的確に設定して頂きたい。案件の運用・効果指標としては当然考えうる指標であっても、ベースライン値が分からない、定量的な目標値の設定ができない、先方実施機関によるモニタリングが難しい、外部条件に大きく左右される、などの指標がある点に十分

留意して指標を設定して頂きたい。

## VI. 使用方法

本指標例の使用方法は、次頁サンプルを参照願いたい。

まず①「開発課題体系」に基づく問題タイプの特定を行い、その上で②問題解決に必要なインフラ種別を検討する。そして③効果の客観的かつ定量的に測定可能な指標例を参照し、適切な指標を設定する。その際には、④類似案件における指標も参照し、プロジェクトのイメージを把握する。類似案件は、JICA-HPの「事業評価案件検索」で検索できる。

「運用指標」は、事業の運営状況を定量的に測る指標であり、「効果指標」は、事業の効果発現状況を定量的に測る指標である。すなわち、事業にて設備・施設等（アウトプット）が整備された結果として、①アウトプットが適切に運営・使用されているかを測定するものが運用指標であり、②それらが受益者や対象地域にもたらした効果を測定するものが効果指標である。

基本指標は案件の特性によらず一般的に必要性が認識されるもので、かつ、データ収集が可能と思われるものを選定している。一方、案件の特性、コンポーネントにより必要となることが想定されるものや、必要性はあるがデータ収集の困難性が高いもの等は補助指標とした。

なお、各案件における指標設定に当たっては、該当するすべての基本指標を設定する必要はなく、案件の特性に応じ取舍選択し、必要に応じ補助指標の活用も行う、また指標例以外に適切な指標があれば適宜追加する、等の運用、応用を行うことが望ましい。

以 上